

中央に入って

泉 朋佳

私が千葉中央ジュニアクラブに入ったきっかけは、お父さんです。なぜかと言うと、五年生の夏にお父さんからいきなりバレーボール体験に行くぞって言われ、よくわからないまま幸三小に体験に行きました。私はバレーに入ると友達と遊べなくなってしまうから入りたくなかったのに、お父さんに説得されて入ることになりました。

私は入って十五日くらいでサーブが入るようになり、八月のB大会に出してもらえました。十月に入ってからは、Aチームとして毎週土、日は遠征に行きました。十一月二十六日の私の誕生日の日に、山梨で関東大会に行きました。私は初めて関東大会に行ったので必死に応援しました。あと、みんなが私の誕生日を祝ってくれたので、とてもうれしかったです。いい経験になりました。

二月にあった新人戦では、市川というチームと戦いました。私達は、なつきたちとは違い、まだチームが完成してなくて、ベスト36で終わってしまいました。その後、泉谷小学校で、一人一人がこれからどういう自分にするのかをステージの上で言いました。私がその時に言ったことは、「だれにもとられないサーブをうつ」と言いました。その時から私は、いつもサーブをうつ時は少しちがった気持ちでうつています。

全国大会県予選は、千葉ポートアリーナで開かれました。その時の第一戦目が、飯山満南で二対〇で勝ちました。次の試合では、クローバー・V四街道とやり、〇対二で負けてしまいベスト16で終わりました。

その後毎日監督のきびしい練習にたえ全国大会に行くためがんばりました。だけど「いつもいつも六年生はだらしない」と毎日のように言われ、とても悔しかったです。

七月にはスポ少関東大会の予選がありました。私達はこの悔しさを元にこの大会にいどみました。一回戦目は坪井とあたり二対〇で勝ちました。二回戦目はスターキッズとあたり二対〇で勝ちました。準決勝は強敵塚田とあたりました。緊張しながらも一生懸命戦い一セット目はとれたけれど、一対二でおしくも負けてしまいました。でも県三位をとることができたけど、心の内にはまだ悔しい思いが残っていました。

夏休みは毎日バレーを休まず練習をし続け、少しずつチームとしても良くなってきて、練習試合でもたくさん勝てるようになり、全国大会という夢が少しずつ近づいてきていると感じました。

十月に入ってすぐ関東大会の県予選がありました。

この大会は、関東大会に三チームが行けるということで、その中に入りたいと思い、薬園台南との試合を必死にがんばりましたが、〇対二で負けてしまい、私たちは大泣きました。とても悔しかったし自分達のプレーができなかったから、すごくもうしわけなくて、いつも監督にだらしがないと言われていたことがわかり、すごく身にしみました。

私たち六年生は最後の大会にむけて必死に練習をし続けました。

スポ少全国大会の予選前に君津のホテルに泊まりました。夜は五年生とよしのに六年生ひとりずつが明日のいきごみを言いました。私は気合いを入れるためにみんなから一発ずつ頭をたたいてもらいました。そのおかげで気合いが入り試合にのぞむことができました。

翌朝飯野小学校で練習をしてから富津総合社会体育館で開会式に出ました。その次に周西小学校でいろんな練習をしました。おもに行ったのはサーブです。「ミスをしないように最初は入れるだけでも良いから集中してちゃんと入れろ」と監督に言われ、私はゆるいボールだけど変化させる打ち方がわかり、このサーブでいこうと決めました。

また富津総合社会体育館にもどり一試合目の坪井と試合をして一セット目二十一対八で、二セット目も二十一対八でストレート勝ちしました。チームのふんいきも良く、レシーバーやアタッカーも活躍する試合でした。

準決勝は薬園台南と試合をやりました。私たちは関東大会で自分たちのプレーが出来ずに薬園に負けてしまった事があったのでとても負けられませんでした。第一セット目十六対二十一で負けてしまい、二セット目も十六対二十一で最後の最後まで必死に戦ったけどおしくも負けてしまい、アリーナの角で私たちは大泣きました。

私たち六年生は、薬園には負けちゃったけど自分たちにとって最高のプレーが出来たのでうれしかったです。結果は県三位だったけど一番いい大会になりました。

こんなにもいい大会に導いてくれた監督、コーチ、保護者の方々、在部生のおかげで私たち六年生にとっての最高の大会になりました。本当にありがとうございました。